

CALL 聴解クラス「CALL & メールクラス」の試み

茅本百合子、桑原陽子、深見兼孝

1 はじめに

外国語学習の有効な方法の一つとして、近年、コンピュータを利用することが活発に行われている。広島大学では、日本語教育のための聴解練習用 CALL 教材として、中・上級学習者用に CD-ROM『聴解：日本の生活「アパートに住む」』（水町・多和田・山中，2003）を製作した。本稿は、この教材を使用して、日本語学習者の聴解力の向上を図るクラスを編成し、試行したことの報告である。

2 試行の概要

以前、広島大学で同じ CALL 教材を使用して聴解特別クラスを編成し、同様の目的で約 1 ヶ月間試行した（水町・多和田・茅本・桑原・山中，2003）。その試行は、毎日（月～金）決まった時間に学習者がコンピュータ室に集まり、講師在室の元、各自学習するというものであった。一方、今回の試行は、各自の研究室や図書館のコンピュータで独学するという自習プログラムであった。いつでもどこでも一人で学習できるという CALL の利点を最大限利用しようとする試行である。しかし、それでは、講師側が学習の効果を測ることができないばかりか、学習者の側も疑問や不具合に出くわしたときに困ることが予想された。そこで、講師と学習者の媒介として電子メール（以下、メール）を使用することにし、メールのやり取りをしながら CALL 教材で学習するという「特別クラス」を計画した。したがって、今回のクラスは「クラス」といっても、決まった日時に集まって学習する形式ではない。

手順は、まず、広島大学留学生センターで授業を受けている学生がこの「特別クラス」に任意に申し込み、オリエンテーションと事前テストを受けた後、CD-ROM とフロッピディスクを⁴持ち帰った。応募者は 21 名で、21 名の出身は、中国 12 名、韓国 2 名、台湾、ベトナム、ケニア、ブラジル、イギリス、ウズベキスタン、タイが各 1 名であった。

⁴ この CD-ROM は学習履歴が自動的に記録されるようにできている。各学習者の学習履歴はフロッピに記録し、終了時に分析のため提出してもらうことにした。なお、この学習履歴については別稿で議論し、本研究では扱わない。

オリエンテーションの直後、事前テストとして行ったのは、聴解テスト、語彙（読み）テスト、語彙（意味）テストの3種類をであった。次いで、CALL 学習に関するアンケートを行った。

CD-ROM を使って語学学習をすることに慣れていない学習者やこの CD-ROM の使い方が分からない学習者のために、初めの2週に2回ずつ、午後5時から6時までコンピュータ室に講師が待機した。しかし、今回の試行クラスの学生はこの機会を利用することはなかった。時間的に無理な学生をできるだけ少なくした時間帯であったにも関わらず、利用者がいなかったということは、今回の参加者はCALL教材に慣れていて講師に頼らなくても自習できると思っていたということが推測できる。

今回の試行クラスでは、CD-ROMでの学習と、講師とメールでやり取りをするという学習方法を採用した。講師とは定期的にメールで連絡を取り、進行状況をチェックし、質問のやり取りをし、講師がメールを使って行うアンケートに答えることをオリエンテーション時に説明した。定期的なメールのやり取りは10日に一度行った⁵。アンケートはオリエンテーションの2週間後に実施（一斉送信）した。日頃、日本語でメールのやり取りをしていない学習者のアドレスには日本語が文字化けをして届くという設定上の不具合が数件あった。そのような学習者のメールは設定を直したり、新たに無料のメールアドレスを取得したりするのを補助した。なお、オリエンテーション時にメールアドレスを持っていない学生が1名いた⁶ので、その場で無料のメールアドレスを取得することを勧め、講師の補助の元、取得した。

オリエンテーションの後、学習者はCD-ROMを持ち帰り、各自のペースで学習を進めた。学習者には、学習履歴を保存するため使用するコンピュータは決めておいたほうがいいこと、毎日時間を決めて学習することを伝えた。

学習の進行状況はメールで把握し、CD-ROMでの学習が終わった学習者から事後テストを行った。事後テストは速い学習者で約7週間後、遅い学習者で約10週間後に実施された。10週間で終了した学習者は12名⁷（うち中国語母語話者7名）、10週間を経ても終了しなかった学習者は9名⁸（うち中国語母語話者6名）であった。

⁵ 学習者からの返信は、残念ながらあまり来なかった。来てもこちらの送信から4~5日過ぎてからのものが多かった。

⁶ 広島大学の学生は広島大学からアドレスを取得することができるが、それを利用していない学生がいた。

⁷ 中国6名、台湾、ケニア、タイ、韓国、イギリス、ウズベキスタン各1名。

⁸ 中国6名、ベトナム、ブラジル、韓国各1名。

3 学習者の概要

学習者の概要を表 1 に挙げる。比較のため、CD-ROM を終了して事後テストを受けることができた学習者と終了することができなかった学習者とに分けている。

表 1 学習者の概要

	終了者 12名	未終了者 9名
年齢平均	29.3 歳	31.4 歳
クラスレベル	初級後半 2名, 中級 6名 上級 4名	初級後半 7名, 中級 1名 上級 1名
メールでのアンケートに答えた	10名/12名	5名/9名
以下アンケートの結果		
コンピュータ歴	2年以上	2年以上
コンピュータ自己所有	7名/10名	1名/5名
コンピュータを毎日使用	9名/10名	3名/5名
メールを毎日活用	9名/10名	3名/5名
CALL 経験あり	6名/10名	4名/5名

終了者と未終了者を比較し、特記すべきことを挙げると、まず、クラスレベルに差が見られるようである。年齢は、終了者、未終了者とも大学院生か大学院に入るための研究生であったので、差はないと考える。メールでのアンケートに答えたのは終了者のほうが多い。コンピュータ歴は差がないが、自分でコンピュータを所有している割合が高い終了者に対し、未終了者はコンピュータの自己所有率が低いようである。一方、CALL 経験については、未終了者も経験があると報告している。しかし、経験があると答えてはいるが、本試行を 10 週間で終えることができなかった。

4 事前・事後テストについて

CALL 学習の効果を確かめるため、事前と事後にテストをして比較した。そのテストの種類は、事前・事後とも、聴解テスト 1 種類と語彙テスト 2 種類であった。

4.1 聴解テスト

聴解テストの事前テストとして、平成 13 年度日本語能力検定試験の 2 級と 3 級の問題 II（絵を選んで解答する問題ではなく、問題と解答を聞いて答える問題）を課した。また、事後テストとして、平成 14 年度日本語能力検定試験の 2 級と 3 級の問題 II を課した。所要時間はそれぞれ 40 分ほどであった。問題数は 2 級が 16 問、3 級が 13 問であった。

4.2 語彙（読み）テスト

CD-ROM に出てくる名詞のうち 20 語を抜粋し、その読みをひらがなで書かせた。事前テストも事後テストも全く同じ語を使用した。実際の語彙を appendix に挙げる。

4.3 語彙（意味）テスト

上記の読みを書かせた語句の意味を書かせた。言語は指定しなかった（日本語の他、英語、中国語、韓国語が見られた）。

表 2 事前テストと事後テストの結果

	終了者（12名）		有意差	未完者事前
	事前平均	事後平均		
聴解テスト	14.9 (29 問中) SD=6.4	18.0 (29 問中) SD=6.6	あり t(11)=3.94, p<.005	8.6 (29 問中) SD=4.6 (8 名)
語彙（読み） テスト	3.8 (20 語中) SD=4.0	7.7 (20 語中) SD=5.5	あり t(11)=4.41, p<.005	2.0 (20 語中) (9 名) SD=3.0
語彙（意味） テスト	5.6 (20 語中) SD=4.9	11.3 (20 語中) SD=5.4	あり t(11)=4.98, p<.005	3.4 (20 語中) (9 名) SD=3.5

表 2 は事前テストと事後テストの結果である。12 名の終了者の得点の平均を比較してみると、3 種類のテスト（聴解テスト・語彙（読み）テスト・語彙（意味）テスト）すべてに有意な差が見られた。このことは、3 種類それぞれのテストにおいて、CALL 学習前よりも学習後のほうが、得点が高かったということである。この結果から、CALL 学習の効果が見られたと言える。

一方、終了できなかった学習者の事前テストの得点⁹は終了者の事前テストの得点より低いようである。日本語クラスのレベルが低い学習者は、この中・上級学習者用の CALL 教材を継続して使用することが困難だったと推測できる。

5 CALLに関するアンケートについて

今回の試行では、劉 (2003) で抽出、使用された 3 因子を持つ 27 項目のアンケート (5 件法) を CALL 学習の前 (事前アンケート)、CALL 学習の終了後 (事後アンケート) として同じ内容のアンケートを 2 回実施した。表 3 は事前と事後の比較である。逆転項目の数値を変換し、平均と標準偏差を算出した。

表 3 CALLに関するアンケート 事前・事後の比較

		事前平均	事後平均	有意差
1	<操作・接触に対する不安 (12 項目) >	1.7 SD=0.48	2.0 SD=0.56	なし (傾向差あり) t(11)=2.12, p=.058
2	<コンピュータ利用への意欲 (8 項目) >	4.1 SD=0.79	4.5 SD=0.76	あり t(11)=2.25, p<.05
3	<CALL 利用拒否態度 (7 項目) >	1.8 SD=0.48	2.0 SD=0.57	なし t(11)=1.09, p=.3

このアンケートで明らかになったことは、まず、コンピュータの操作・接触に対する不安はそれほど大きくないことである。しかし、学習前より学習後のほうが、不安が大きくなる傾向があった。CD-ROM やフロッピの不具合があった場合、不安になる傾向があったのだろうか。この傾向差は要注意である。次に、コンピュータ利用への意欲は、評定値が大きく、意欲があることが明らかになった。そして、意欲は学習前より学習後のほうが強かった。コンピュータ支援による語学学習で得られるものがあり、意欲がわいたと考えられる。最後の CALL 利用拒否態度の評定値は低いと言える。平均値は学習前の 1.8 から学習後は 2.0 になっているが、有意差はなかった。元々 CALL 学習を否定していない学習者であったので、それが学習後に拒否態度が大きくなることはあまり考えられないというの

⁹ 終了できなかった学習者は、事後テストは受けていないので、事前テストのみの得点結果である。

が順当な解釈であろう。

今回、終了することのできなかつた学習者は、学習前のアンケートに答え、学習を始めたが、終了しなかつたので事後のアンケートには答えていない。しかし、事前アンケートの平均値はデータとして残っている。そこで、終了者と未終了者の事前アンケートを比較した。結果を表4に記す。未終了者のほうが、終了者よりコンピュータの操作に関して不安である傾向があつた。終了できなかつた理由として、このコンピュータ操作に関する不安の傾向が考えられる。

表4 CALLに関するアンケート 終了者事前・未終了者事前の比較

		終了者 事前平均	未終了者 事前平均	有意差
1	<操作・接触に対する不安(12項目)>	1.7 SD=0.48	2.2 SD=0.47	なし(傾向 差あり) t(19)=2.00, p=.060
2	<コンピュータ利用への意欲(8項目)>	4.1 SD=0.79	3.8 SD=0.41	なし t(19)=1.21, p=.24
3	<CALL利用拒否態度(7項目)>	1.8 SD=0.48	2.2 SD=0.61	なし t(19)=1.48, p=.15

6 メール学習に関するアンケートについて(5件法)

今回のCALL & メール学習の全般的な印象評定をするため、メール学習に関するアンケートを行った。このアンケートは、学習者が事後テストをするため集まったときに実施した。したがって、媒介はメールではない。印刷されたアンケートを配布し、その場で回収した。表5はそのアンケートの結果である。逆転項目は数値を変換した。

表5 メール学習に関するアンケート

		平均	SD
1	メールはどこからでも先生に連絡できるから便利だ。	4.8	0.60
2	メールを日本語で書くのは大変だ(逆転項目)。	2.9	1.19
	変換後の数値	4.2	1.69
3	返事がすぐにもらえないから、よくない(逆転項目)。	2.4	1.32

	変換後の数値	4.5	1.57
4	このクラスに参加して、メールをよく使うようになった。	2.2	1.34
5	日本語でメールを書くのはおもしろい。	3.8	1.01
6	勉強する時は、メールよりも直接先生と話したい（逆転項目）。	3.3	1.01
	変換後の数値	3.9	1.76
7	日本語のメールは上手に書けないから、恥ずかしい（逆転項目）。	2.8	1.34
	変換後の数値	4.2	1.73
8	メールの使い方がよくわからない（逆転項目）。	1.1	0.28
	変換後の数値	5.3	0.57
9	先生からの日本語のメールを読むのは大変だ（逆転項目）。	1.3	0.85
	変換後の数値	5.2	0.93
10	メールは、好きな時に先生と連絡できるから便利だ。	4.1	1.04
11	自分の国の言葉を使えるなら、先生にメールを書くのは楽しい。	3.2	1.34
12	日本語のメールの書き方がわからない（逆転項目）。	1.7	1.03
	変換後の数値	4.9	1.15
13	メールを日本語で書くのは、日本語の練習のためによい。	4.6	0.64
	平均	4.2	0.85

質問 4「このクラスに参加して、メールをよく使うようになった」の評定値は低いですが、今回の学習者はすでに通常メールを使用しているので、今回の学習をきっかけとしてメールを多く使用するようになったとは言えないということであろう。評定値の平均は 4.2 で高得点である。今回の、学習言語での講師とのメールのやり取りをして学習する方法は、概ね肯定的であったと結論付けられる。

自由記述

メール学習に関するアンケートでは、自由記述も求めた。書かれた感想をすべて appendix に記載する。中には、CALL に関する感想も見られたが、その他として分類した。誤字・脱字もそのまま記載している。メールで教師と連絡が取れるのが便利な反面、直接会って話をしたいという希望が目立つ。日本語で作文するのが、終了者でさえ、少し重荷になっていることも読み取れる。また、日常、日本語でメールをやりとりしていなかったため、文字化け等の不具合が対処できないストレスもあった。しかし、定期的に教師から学習言語でメールが届くと、それを読んで返信するという作業が日本語学習になっていた。

7 まとめ

今回の試行に参加した学習者は概ね CALL 学習に慣れており、快調な滑り出しのように見えた。しかし、日本語の習熟度が低い学習者が 10 週間で終了することができなかった。CALL 学習に関しては概ね好意的・意欲的であったと結論付けてよいであろう。CALL 学習とメール連絡の併用についても、有効であった。

appendix

<アンケートでの自由記述> (誤字・脱字はそのまま記載した)

いい点

日本語の書く練習ができます

はやくとべんりな

It gives me opportunity to practice more of what I have learnt. Through it I learn new vocabulary and sentence patterns.

It very easy to contact teacher anytime that having some problem.

便利

便利と速く連絡しています

練習日語的機會多了

隨時聯系，不受地点限制。

便利

便利です

いつでも先生に連絡できます

日本語のよみ方やかんじをよくまなふこと。

話せない (訂正してもらいたい)

悪い点

せんせいにあわないです

It is sometimes embarrassing when I make grammatical mistakes or can't read some words (written

in kanji characters new to me) I have to ask somebody to read for me.

There is some different between window / Mac system that make some error in reading Japanese if the mail was sent by Mac system.

なんじに相手はメールをもらうかとうかわからない。

日本語の書き方がちょっと難しい

有時不能及時收到郵件

約束性不够，要提高學習自覺性

沟通不如面对面那么随意，深入。

返事がいつくるかわかりません

先生に連絡するのは時間がかかりますが，ながいかいわだったらめんどくさいです。

speedがおそい，わたしの computer が日本語をよくよまないことがときときあります

これから，もしこのようなクラスがあれば参加したいです。

その他

I enjoyed this method of learning and would like to continue with it.

It would be better if there is some vocabulary list (print-out type), so that we can learn new vocabulary easier.

CD-rom について，練習問題の答えはまちがったとき進まられなかったり，もう一回言葉だけ勉強をしたいとき，練習問題を全部しなければならぬのは，めんどくさいと思います。

この CD をつかうのはおもしろいです。でも，日本語でせつめいできない間，先生にあつてちよくせつ言したい。

こんどの CD-rom で日本語を勉強するのは はじめてので おもしろく おわりました。とても気楽で勉強できました。

<語彙テストの語句>

自炊 礼金 収納 共益費 和室 日当たり 包丁 投函 元栓 粗大ゴミ 二次会
宛先 壁紙 転送 点検 交渉 不明 業者 破損 不動産屋

引用文献

- 水町伊佐男・多和田眞一郎・山中恵美 2003 日本語 CALL 聴解練習用教材の開発 広島
大学日本語教育研究（広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座） 13, 15-21.
- 水町伊佐男・多和田眞一郎・茅本百合子・桑原陽子・山中恵美 2003 日本語 CALL 聴解
練習用コースウェアの開発と評価 日本教育工学会論文誌 27, 337-346.
- 劉百齡 2003 CALL 利用学習に対する態度・動機づけ要因の分析 言葉と文化 名
古屋大学大学院 国際言語文化研究科 日本語言語文化専攻, 第3号, 201-214.